



VMware Workspace ONEで 約6,000台のモバイル端末をセキュアに管理し ワークスタイル変革を推進

KIRIN

業界

FOOD & BEVERAGES

課題

- ワークスタイル変革に向けた総合エンドポイント管理(UEM)基盤の整備
- モバイル端末の管理効率の向上(インストールアプリの一覧取得、AD連携、位置情報の把握など)
- ユーザーの増加に伴う管理負荷の軽減
- Office 365のモバイル利用におけるセキュアな権限設定と、アプリケーションの制御、シングル・サインオンへの対応

ソリューション

ワークスタイル変革に向けたモバイル端末の業務利用にあたり、営業職を中心に社給スマートフォンの配布とBYODの実施を決定。その管理基盤としてVMware Workspace ONEを導入し、約6,000台のモバイル端末の安全な管理と効率的な運用を実現している。現在はMicrosoft Office 365のモバイル利用に向けて、Workspace ONEのID管理とシングル・サインオン(SSO)の実装を進めている。

導入効果

- 外出先での生産性向上、意思決定の迅速化など、ワークスタイル変革の加速
- BYODを含む約6,000台のモバイル端末の効率的な管理、セキュリティの確保
- モバイルアプリケーションの充実によるユーザーの利便性向上
- VMwareのSupport Account Manager (SAM)からの適切なアドバイスによる課題解決の迅速化

導入環境

- VMware Workspace ONE

プロフェッショナルサービス

- Office 365とVMware Identity Managerの検討/設計/導入支援

キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンの3社が、事業やジャンルの垣根を越えて多彩な商品やサービスを提供するキリングroup。モバイルを活用したワークスタイル変革を目指す同グループでは、2016年から営業職を中心にモバイル端末の支給を開始し、現在はBYODも含めて約6,000台の端末がグループ内で利用されています。これらの端末の管理基盤には、VMware Workspace ONEを採用。アプリケーションの制御、ポリシーに基づく権限管理、シングル・サインオンの実現など、総合エンドポイント管理(UEM)基盤としての機能を効果的に活用して、セキュアなアクセスと安定的な運用を実現しています。

モバイル端末の管理基盤として VMware Workspace ONEを採用

長期経営構想「新キリン・グループ・ビジョン2021」に向けた2016-2018年の中期経営計画のもと、「主力ブランドへの集中投資」と「社会との共有価値を創造する経営の推進」に取り組むキリングroup。この中では重点課題の1つに「ワークスタイル変革」が掲げられ、その具体的な施策としてモバイル端末の積極的な業務活用が進められています。

2016年には、新たな営業支援システム(SFA)の導入と同時に、社給スマートフォンの配布とBYODがスタート。ここには、外出先からのメール、スケジュールの確認、また日報入力、決裁承認などによる、主に営業職の業務生産性向上という狙いがありました。

同時に同グループでは、総合エンドポイント管理(UEM)の基盤として、VMware Workspace ONEの採用を決定。その理由について、キリングroupのIT戦略の開発・運用を担うキリンビジネスシステム株式会社(以下、KBS)システム基盤統轄部 部長の山本達彦氏は次のように話します。

「Workspace ONEは、キリングroupがUEMの管理基盤として求めるセキュリティ、端末管理、AD連携などの要件を一通り満たしていました。端末の位置情報の取得、端末種別に応じた会社提供のアプリダウンロード許可といった独自のルール設定も可能で、これらをすべて単一のコンソールから一元的に管理できることもメリットでした」

VMwareの専任サポートによる UEM基盤の安定的な運用

ところが、新たなUEM基盤の運用を続ける中で新たな課題も浮上します。KBSシステム基

盤統轄部 ワーキングスタイル変革グループ 担当部長の山谷竜生氏は次のように説明します。

「1つはスマートフォンの業務利用が、想定以上のペースで拡大したことです。アプリへの改善要望も多く、管理面での負荷が急激に高まりました。もう1つは、人事異動で発生するユーザーIDの切り替え作業です。特に4月、10月の繁忙期は、既存のリソースでは対応が困難なほどでした。さらにWorkspace ONEのサービス安定化に思った以上の工数を要しました。メールが閲覧できないなどのトラブルが多発し、ここでも対応に追われていました」

これらの改善に向けてキリングroupでは、2017年11月にWorkspace ONEの運用基盤を共用型のクラウド基盤から、VMwareが提供する専用のクラウド基盤へと切り替え、サポートもVMwareのSupport Account Manager (SAM)が専任体制で支援する最上位のサービスに変更しました。

「他社の事例を調査するなど対応策を模索する中で、行き着いたのが専用基盤への移行とSAMの利用でした。痛みを伴う環境移行となりましたが、結果的に安定化につながり、今後の拡張にも備えることができました」(山谷氏) 運用面でも、RPAを活用して申請手続きを自動化するなど、管理負担の軽減を図っています。



キリンビジネスシステム株式会社
システム基盤統轄部
部長
山本 達彦 氏

「社給スマートフォンやBYODの業務活用を推進していく上では、安定した UEM 基盤が欠かせません。そのためにも、モバイルからのセキュアなアクセスを実現する VMware Workspace ONE の専用基盤と、SAMから専門的な知見が提供されるサポートには大きな期待を寄せています」

キリンビジネスシステム株式会社
山本 達彦 氏



キリンビジネスシステム株式会社
システム基盤統轄部
ワーキングスタイル変革グループ
担当部長
山本 達彦 氏



キリンビジネスシステム株式会社
システム基盤統轄部
ワーキングスタイル変革グループ
担当部長
山本 光彦 氏



キリンビジネスシステム株式会社
システム基盤統轄部
ワーキングスタイル変革グループ
リーダー
増戸 淳 氏



株式会社システムコンサルタント
オープンシステム統括部
リーダー
中山 正久 氏

カスタマープロフィール

1907年2月に麒麟麦酒株式会社として創業。2013年1月に日本国内の総合飲料事業を担う事業会社としてキリン株式会社が発足。「あたらしい飲料文化をお客様と共に創り、人と社会に、もっと元気と潤いをひろげていく」という理念のもと、キリンビール、キリンビレレッジ、メルシャンの3社とキリンが一体となり、「キリン一番搾り生ビール」「キリンファイア」「シャトー・メルシャン」などの商品を通じて、酒類事業、飲料事業の垣根を越えた新たな価値創造を行っている。

株式会社システムコンサルタント オープンシステム統括部 リーダーの中山正久氏は、「現在、メールで寄せられた申請処理はほぼ自動化し、生産性は約50%向上しました。一方、利用者からの問い合わせが増えたことから、チャットボットによるナレッジ提供や従業員自身のITリテラシーの向上が今後の課題です」と語ります。

Office 365へのセキュアなアクセスにID管理とシングル・サインオン (SSO) の機能を活用

本格導入から約2年が経過した現在、社給のスマートフォンはiPhoneを中心に約5,000台、BYOD 端末が約1,000台で、管理対象となる端末の台数は約6,000台に達しています。BYODは営業職のほか内勤の社員を含め全社員へ対象を拡大し、グループ会社30数社へ広がりを見せています。

Workspace ONEのアプリは、メールアプリの「VMware Workspace ONE Boxer」、ファイルサーバ接続用の「VMware Workspace ONE Content」、Webブラウザの「VMware Workspace ONE Web」の3種類に、自社開発の業務アプリ、SFA、経費精算、名刺管理などのSaaSアプリも加えると10数種類が利用されています。

今後はキリングroup全体で進めているMicrosoft Office 365の導入に合わせて、モバイル端末からもOffice 365が利用できるようにする計画です。その際、Office 365のアプリは、Workspace ONEのID管理機能とシングル・サインオン(SSO)の機能を用いて制御し、ExchangeはメールアプリのWorkspace ONE Boxer、SharePointはWorkspace ONE Web、OneDriveはWorkspace ONE Content、SkypeはSkypeアプリに限定する方針です。

KBSシステム基盤統轄部 ワーキングスタイル変革グループ 担当部長の山本光彦氏は「まずは情報部門が2018年9月から導入・試験的に運

用して、問題がなければ11月からグループ全体に展開していく考えです。特にSkypeは、PC・モバイル端末に依存しない外出先からの会議への参加、リモートワーク、在宅ワークの拡大に貢献するアプリとして期待しています」と語っています。

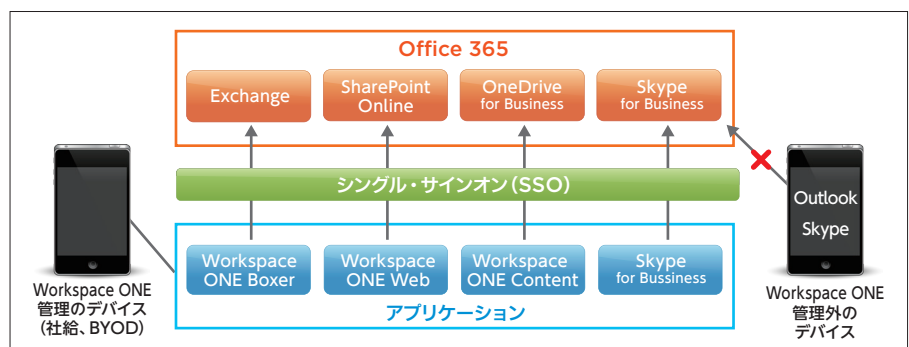
ID管理とシングル・サインオン(SSO)の導入については、サービス拡張を見据えてAD連携やSSO基盤を整備済みだったこともあり、スムーズに進んだといえます。KBSシステム基盤統轄部 ワーキングスタイル変革グループリーダーの増戸淳氏は「2017年にSaaSアプリを追加する際、シングル・サインオン(SSO)やSAML認証の検証を行い、その有効性を認識していたため、Office 365でも迷うことはありませんでした。現在はVMwareのSAMからのアドバイスも踏まえ、セキュリティの確保と安定運用に向けた環境整備を進めています」と話しています。

ユーザーのニーズに即したサービスでワークスタイル変革をさらに加速

今後は、ユーザーの要望に応じてアプリの充実を図り、勤怠管理、自販機の管理などの機能を追加しながら、モバイルワークの生産性向上を推進していく方針です。その上でシステム基盤統轄部 部長 山本達彦氏は、管理基盤の安定運用の重要性について次のように話しています。

「専用のクラウド環境やSAMを利用してわかったことは、VMwareとの密な連携によって、早期の対応と予防的な措置を図れることでした。定期ミーティングや米国の開発元との情報交換などで先行技術に関する情報提供もあり、キリングroupのロードマップにも反映しやすくなりました。モバイルサービスの進化も、安定した基盤があってこそのもので、引き続きハイレベルなサポートを期待しています」

Workspace ONEで構築されたUEM基盤は、今後もますますキリングroupのワークスタイル変革とビジネスの成長に大きな貢献を果たしていくはずだと話しています。



図：キリングroupが推進するワークスタイル変革基盤の概念